

複合領域科目1-81「良心学」第4回

良心学の展開

—— グローバル時代の良心の探求 ——

良心学研究センター (2015年4月1日設立)

<http://ryoshin.doshisha.ac.jp>



corruptio optimi pessima

500th Anniversary

良心を世界に

「一国の良心とも謂うべき人々を養成せんと欲す。」 (設立の旨意)

良心を覚醒させる知の連携と知の実践

「良心の全身に充滿したる丈夫の起り来たらん事を」 (良心碑)

【研究】

良心を考えた時に

【教育】

「良心学—グローバル時代における良心の探求」 (小原 克博)

「良心学—良心を実践する」 (八木 匡)

「良心学—こころと創造性」 (八木 匡)

「良心学—良心を科学する」 (林田 明)

「良心」概念の系譜

西洋における「良心」

- conscience ← conscientia (コンスキエンティア、ラテン語)
= con (共に) + scire (知る)
- その元になるのは συνείδησις (シュネイデーシス、ギリシア語)
= συν (共に) + εἶδω (知る、考える)
- (参考) ドイツ語 Gewissen = ge (共に) + wissen (知る)

誰と「共に知る」のか？

- 自己の内面的対話 (内なる他者との対話) 【個人的良心】
- 他者と「共に知る」 【社会的良心】
- 神と「共に知る」 【信仰的良心】

日本における「良心」

- conscienceの訳語として「良心」が最初に用いられたのはブリッジマン・カルバートソン訳『新約聖書』(1863年)において、『孟子』から取られた。(『角川新字源』)
- 孟子は性善説を唱えた。日本語の「良心」も、こうした儒教思想の影響を受けている。
- しかし、「良心」の思想的広がりを視野に入れるためには、「良」を一度取り除き、「共に知る」に起因する緊張関係を取り戻すべきではないか。



現代における「良心」

- ・ 自分自身を深く振り返り、「個」の強度を高める「良心」
(内に向かう良心、個人的良心)
- ・ 共同感覚としての「良心」 (外に向かう良心、社会的良心)
- ・ 国家主導の「道徳教育」と一線を画する「良心教育」
(良心の越境的・対話的次元)
- ・ 地域・世代を超えた「共に知る」ことの実践 (良心の共同体)

良心学の展開

・「統合知」としての良心

- ・「良心」に隣接する諸概念（道徳、倫理、意識、認知能力、共感、利他性、対話など）を用いながら、幅広く人間の精神と行動を研究する。
- ・「共に知る」ことを原義とする良心の現代的機能は、細分化した多様な学問領域を「接着剤」のようにつなぎ合わせる「統合知」。

・「実践知」としての良心

- ・新たな価値を広げ、社会に影響を与えていくためには、コミュニケーション能力やリーダーシップといった「実践知」が必要。

「統合知」としての良心

大学および学問の歴史

- ・ ユニヴァーシティ (←universitas) の誕生 (12世紀のヨーロッパ)
- ・ 上級学部：有用な学 (神学・法学・医学)
- ・ 自由学芸学部 (Faculty of Liberal Arts)：リベラルアーツ (自由7科：文法学・修辞学・論理学・代数学・幾何学・天文学・音楽)

【参考文献】吉見俊哉『大学とは何か』岩波書店、2011年

リベラルアーツの復活

- ・ なぜ長らく失われていたリベラルアーツが復活したのか？
- ・ キリスト教世界における知の伝統と、イスラーム世界経由で再流入した古代ギリシアの知が交差し、**宗教性**と**世俗性**が緊張を帯びた出会いをなす。
- ・ リベラルアーツは「哲学」（文系・理系を含む）に統合されていく。

19世紀のアメリカ

- ・ 哲学
 - ・ 自然哲学 (natural philosophy) → 自然科学
 - ・ 知識哲学 (mental philosophy) → 論理学、心理学
 - ・ 道徳哲学 (moral philosophy) → 倫理学、政治学、経済学
- ・ conscience は興隆する道徳哲学を背景として重視された。
☞ 『良心を考えるために』第II部「新島襄と良心—その歴史的背景」

キリスト教

良心とは？

世俗社会（啓蒙的価値）

グローバル時代における問い

- ・ 西洋における啓蒙的価値（例：人権）は「普遍的」か？
- ・ 西洋的価値とイスラーム的価値の対立は調停可能か。
- ・ 多様性、価値の多元化にどのように対応できるのか？
- ・ 世界は一方向的に「世俗化」しているわけではない。

「実践知」としての良心

良心を世界に

- ・ 「地の塩」「土の器」として生きる。
- ・ 国策としての「グローバル人材」の育成に対して
- ・ 「良心」の実践者たち：留岡幸助、山室軍平、石井十次、柏木義円ら
- ・ **良心の実践者**となるために必要なビジョンと力



山室軍平



柏木義円

良心学の方法論